

# 薬剤師 の 活躍

## 東京オリンピック・パラリンピック開催で 注目されるスポーツファーマシスト

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、今、スポーツファーマシストに注目が集まっている。スポーツファーマシスト（正式名称：公認スポーツファーマシスト）とは、公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構による講習を受講し知識到達確認試験に合格した薬剤師に与えられる認定資格である。主な活動は国民体育大会（以下、国体）で選手へのアンチ・ドーピングに関する情報提供や啓発活動と学校教育の現場におけるアンチ・ドーピング情報を介した医薬品の使用に関する情報提供や啓発活動の二つ。

2016年に岩手県で開催された国体でスポーツファーマシストとして活動した佐藤大峰さん（岩手県薬剤師会アンチ・ドーピング委員会委員、株式会社ライブリー ゆぐち薬局）にお話をうかがった。佐藤さんは北海道薬科大学薬学部を卒業後、同大学大学院へ進み2005年修士課程を修了。薬剤師として活躍する中、2011年にスポーツファーマシストの資格を取得した。中学から大学までバレーボールに打ち込んだスポーツマンで、薬学部在学中からアンチ・ドーピングに興味があったという。



バレーボール少年男子の選手や監督などに対してアンチ・ドーピングの講義を行う佐藤さん

Q 国体ではどのような活動を？

A 開催前は県内の競技団体単位で選手や監督、コーチ、スタッフに対して、どのような薬がドーピング違反になるのか、ドーピング検査の手順、薬やサプリメントを服用する前に必ずスポーツファーマシストや薬剤師に相談することなどを伝えました。

期間中は、選手やトレーナー、体育協会スタッフ等からの薬の相談に対応しました。ドーピングが怖くて鎮痛剤の服用を躊躇する選手には禁止物質の有無を確認し、痛みをしっかりとて試合に臨むようにアドバイスをしました。禁止物質が入っていない場合でも眠気の副作用が出そうな薬はパフォーマンスに影響することもあるので注意喚起を行いました。

また、競技会場にブースを設置して、アンチ・ドーピングの啓発もしました。アンチ・ドーピング活動は選手やス

タッフだけでなく、一般市民の方にも知っていただくことが重要です。応援や観戦に来た方、大人だけでなく子どもにもドーピングとは何か、アンチ・ドーピングとは何かを知っていただくと、周りにいるスポーツをしている人はどうなのかとか、自分も大きくなつてスポーツをする時にどうすれば良いのかを考えるきっかけになります。

Q スポーツファーマシストとしての目標は？

A ドーピングは知っていても、薬剤師が関わる事でドーピングを防ぐことができる事を知らない方がたくさんいて、まだスポーツファーマシストの認知度は低いと感じました。選手の中には、漢方やサプリメントはドーピング検査で違反にならないと思っている方もいました。選手が禁止物質を飲んでしまえば、もうどうすることもできません。薬やサプリメントを飲む前に薬剤師に相談するのが当たり前という流れにしたいですね。国体終了後も選手やチームスタッフ、トレーナー等の横のつながりをもっと深め、不可欠な存在になるように頑張っていきたいです。スポーツファーマシストとして岩手県のバレーの選手やチームに関わりたいという目標もあります。もちろん、2019年のラグビーワールドカップや2020年東京オリンピック・パラリンピックでも活動できればうれしいです。

Q 薬剤師としての今後の目標は？

A 岩手県薬剤師会では、アンチ・ドーピング活動は薬剤師の職能の一つとして考え、学校薬剤師には薬物乱用防止講座でアンチ・ドーピングについても話してもらうようにしています。私も小・中・高の学校薬剤師をしているので、それぞれの学年に応じたアンチ・ドーピング活動をしていますし、今後も継続していきたいと考えます。

また、北海道薬科大学の教授と連携をとりながら研究を続け、学会で発表したり、論文を書いたりもしています。どの分野でもそうですが、研究なくして発展はありません。今後も大学と連携しながら研究を継続していきたいです。できればアンチ・ドーピングやスポーツファーマシスト関係の研究もできると良いと思っています。



選手一人ひとりと向き合い耳を傾ける